

氏名 藤 公晴 (TO Kimiharu)

所属 大学 社会学部社会学科

職名 教授、学長補佐、SDGs 研究センター センター長、学修支援センター長

生年月日 1968 年 9 月 21 日 (大阪府高槻市生まれ、本籍地 東京都)

[履歴]

[学歴]

1993 年 12 月 カリフォルニア州立 Humboldt State University「資源利用に関する社会科学 - Natural Resources Economics and Policy」卒業

2001 年 3 月 青森大学・大学院環境科学研究科修士課程 修了

2015 年 12 月 ニューヨーク州立大学大学院環境科学森林学部博士課程修了

専攻：環境コミュニケーションと参加型プロセス Philosophy of Doctor

論文：Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan

[学位]

環境科学 博士

[職歴]

2001 年 4 月 社団法人日本環境教育フォーラム 国際事業部

2004 年 12 月退職

2009 年 4 月 青森大学大学院講師

2012 年 4 月 青森大学社会学部准教授

2015 年 4 月 青森大学社会学部教授

[賞罰]

日本政府世界銀行共同大学院奨学金フェロー (2006-2008)

[所属学会]

日本環境教育学会、International Environmental Communication Association (国際環境コミュニケーション学会)、International Comparative Education Association (国際比較教育学会)、日本環境社会学会、全米評価学会 (-2007)、国連システム学術評議会 (~2017)、環境思想・教育研究会(~2013)

[教育活動]

[担当科目]

学問のすすめ

環境論

社会学演習 IV&V

グローバル英語

環境社会学 I & II

地域体験実習

社会学演習 I

英語 II A & B

地域貢献基礎演習

英語 I & II A, 英語 I & II B (再履修)

社会教育学実習

[論文指導]

学士論文指導 56名 (現在8名)

修士論文指導 3名

修士論文副査 6名

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 質的研究方法
- (2) 社会運動論
- (3) 持続可能な開発 言説論
- (4) 環境教育・持続可能な開発のための教育政策
- (5) ディープ・エコロジーを中心とした環境思想

[著書・論文]

長濱 和代, 藤 公晴, 二ノ宮リム さち, 野口 扶美子, 元 鍾彬, 桜井 良, 田村 和之, 高橋 宏之, 楠美 順理, 加藤 超大, 飯田 貴也, 萩原 豪, 岩佐 礼子 (2022) 日本環境教育学会第32回年次大会 (北九州・オンライン) 報告 (3), 環境教育, 2021, 31 巻, 4 号, p. 4_15-18, 公開日 2022/08/04, Online ISSN 2185-5625, Print ISSN 0917-2866, https://doi.org/10.5647/jsoee.31.4_15,

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsoee/31/4/31_4_15/_article/-char/ja

Ryo Sakurai, Kimiharu To (2021). Conducting International Collaborative Research in Uncertain Times: Publishing the Third Issue of Environmental Education in Asia. *Japanese Journal of Environmental Education* 31(2) 2_1-3. 「査読有」

Yu-Chi Tseng, Sakurai Ryo, Kimiharu To (2021). Comparing Undergraduates' Connection with Nature and New Ecological Paradigm in Relation to Intention of Environmental Behaviors in Taiwan and Japan. Special Issue of the *Japanese Journal of Environmental Education: EE in Asia*. 31_2_38 「査読有」

藤 公晴 (2021) 国際共同研究会の報告『環境教育』77号. 一般社団法人日本環境教育学会

藤 公晴、野口扶美子、飯田貴也、二ノ宮リムさち、桜井良、他 8名(2021) Environmental education and COVID-19 : Impact and Response (環境教育と COVID-19 : 影響と対応) オンライン・ラウンドテーブルセッション 国際交流委員会報告『環境教育』78号. 一般社団法人日本環境教育学会 「査読有」

藤 公晴 (2021) 「3人寄らば文殊の知恵」の学習機会を目指して 『一般財団法人 青森県工業技術教育振興会会報』 第33号 5-7ページ

TO Kimiharu, CHANG T.C., KIM Chankook, LEE Sun-kyung, SAKURAI Ryo, NINOMIYA-LIM Sachi, HATA Noriko, KATAYAMA Junko, FURIHATA Shinichi (2019). Possibilities on International Collaborative Research for E.E. in Asia. *Japanese Journal of Environmental Education: Environmental Education in Asia*. 「査読有」

TO Kimiharu (2015) Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan. *STATE UNIVERSITY OF NEW YORK COL. OF ENVIRONMENTAL SCIENCE & FORESTRY*, 2015, 184 pages; 10105244

Cheryll Glotfelty. and Eve Quesnel (Eds). (2014) *The Biosphere and the Bioregion: Essential Writings of Peter Berg*. Routledge Environmental Humanities Series (Series Editor: Iain McCalman, Libby Robin). Taylor & Francis. New York. ISBN-13: 9780415704403

藤 公晴「ネイチャー・ライティングの授業への導入の可能性をさぐる」環境思想・教育研究会

誌、2014 年第 2 号

藤 公晴（共著）『日本型環境教育の知恵：人・自然・社会をつなぎ直す』小学館 第 6 章「官民協働の意義と課題」189-208 ページ、2008 年 9 月

藤 公晴「インタープリテーション、哲学、エコロジー運動—アルネ・ネス氏追悼」環境思想・教育研究会誌、39-43、2009 年第 3 号

藤 公晴「持続可能な開発のための教育（ESD）と環境教育について」（第 4 部第 14 章：169-196 ページ）と「ESD と自然学校の関わりについて」（第 15 章：197-208 ページ）『自然学校指導者養成講座テキスト』社団法人日本環境教育フォーラム 2009 年

藤 公晴「インタープリテーション、哲学、エコロジー運動—アルネ・ネス氏追悼」地球のことも（社）日本環境教育フォーラム 機関誌 2009 年 7&8 月号 9-10

井上有一、藤 公晴（共訳）『ディープ・エコロジー：生き方から考える環境の思想』昭和堂 第 5 刷 2010 年

[報告書など]

令和 4 年度 青い森におけるローカル SDG s のシナリオ創出に関する調査研究①

公益財団法人青森学術文化振興財団

令和 4 年度 大学による SDG s の考え方等を取り入れた環境人財育成事業

青森県環境生活部環境政策課

令和 3 年度 SDG s 時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究事業②

公益財団法人青森学術文化振興財団

令和 3 年度 大学による SDG s の考え方等を取り入れた環境人財育成事業

青森県環境生活部環境政策課

令和 2 年度 SDG s 時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究事業②

公益財団法人青森学術文化振興財団

令和 2 年度 大学による環境教育モデル形成促進事業報告書

青森県環境生活部環境政策課

令和元年度 SDG s 時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究事業

公益財団法人青森学術文化振興財団

令和元年度 大学による環境教育モデル形成促進事業報告書

青森県環境生活部環境政策課

ハクチョウがつなぐ魅力ある地域づくり ハクチョウのまち再生事業 2019

青森大学報告書 平内町教育委員会

平成 30 年度大学と地域の NPO 等との協働による環境人財育成事業業務実績報告書

青森県環境生活部環境政策課

アートが繋ぐ震災の記憶と希望：「月刊れぢおん青森」平成 28 年 6 月号 一般財団法人青森地域社会研究所

藤 公晴 アメリカにおける青少年教育施設等の調査報告（平成 24 年度文部科学省受託事業）

（平成 25 年 3 月）諸外国の青少年教育施設等調査」報告書 独立行政法人国立青少年教育振興機構

藤 公晴 特集 諸外国の青少年施設調査 文部科学省・国立青少年教育振興機構合同研究会（発表報告） 独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター紀要第 2 号（平成 25 年 11 月）

[学会発表]

Yu-Chi Tseng, Sakurai Ryo, Kimiharu To & Yueh-Chu Huang. Pilot Cross-country Survey on Taiwanese and Japanese Undergraduates' Nature Connection. The 17th North American Association for Environmental Education Research Conference, Tucson, Arizona (10月9日)

藤 公晴 (2020) 【招待講演】SDGs 時代における大学の学びを開き、つなげる試み. 東北地区環境教育研究・活動発表会(第3回環境教育学会東北支部大会).弘前大学 2月29日(土)

藤 公晴 (2020) SDGs 時代における大学の学びを開き、つなげる試み：2019年度大学による環境教育モデル形成促進事業をもとに考える. 東北地区環境教育研究・活動発表会(第3回環境教育学会東北支部大会).弘前大学 2月29日(土)

Kimiharu TO, Shinichi FURIHATA, CHANG T.C., NINOMIYA-LIM, Sachi, LEE SUN-kyung, KIM Chankook (2019) International Collaboration Matters ②: Studying EE Researchers across nations The 2019 North American Association for Environmental Education Annual Conference, Lexington Kentucky. October 17th

NINOMIYA-LIM Sachi, Kimiharu TO, Shinichi FURIHATA, Ryo SAKURAI, Kentaro TABIRAKI (2019) Promoting International Collaboration for Diversifying Education Research – Based on the Experience of the Japanese Society for Environmental Education and its International Partners. World Education Research Association, 2019 WERA Focal Meeting, Tokyo, Japan

TO Kimiharu, CHANG T.C., KIM Chankook, LEE Sun-kyung, NINOMIYA-LIM Sachi, FURIHATA Shinichi. (2018). International Collaboration Matters: Studying EE Researchers across nations Researching EE researchers among Taiwan, Korea and Japan. The 47th Annual North American Association for Environmental Education Conference. Spokane WA October 12th 2018

TO Kimiharu, CHANG T.C., KIM Chankook, LEE Sun-kyung, SAKURAI Ryo, NINOMIYA-LIM Sachi, HATA Noriko, KATAYAMA Junko, FURIHATA Shinichi (2018) Possibilities on International Collaborative Research for E.E. in Asia. The 29th Annual Meeting of the Japanese Society for Environmental Education Tokyo Gakugei Univ. Aug. 24-26, 2018

藤 公晴他 (2018)「アジアの環境教育」をテーマとした国際共同研究の可能性 (3)日本環境教育学会第12回関東支部大会. 学会発表 学習院大学 3月11日

海外招待講演 TO Kimiharu (2018) Environmental Education in Asia: Researching EE researchers among Taiwan, Korea and Japan. 国立台湾師範大学大学院環境教育研究所 3月27日

日本環境教育学会第11回関東支部大会(学習院大学) 研究実践報告(共同発表:降旗信一、T.C.チャン、キム チャンクック、イ ソンギョン、二ノ宮リムさち、秦範子、片山純子、藤公晴)「アジアの環境教育をテーマとした国際共同研究構想の可能性」(平成29年3月12日)

Comparative International Education Society 2016 Annual Conference 3月10日
Vancouver British Columbia CANADA

1) 指定討論者

Kimiharu To,

Environmental & Sustainability Education SIG Highlighted Session: Contesting and challenging the assumptions of education for sustainable development. Contemplating

environmental education and ESD: Cross-national case of Japan and the U.S.

2) ポスター発表

Kimiharu To Dimensions of education: Cultural, moral, philosophical and social
Contemplating environmental education and ESD: Cross-national case of Japan and the
U.S.

環境社会学会第 45 回大会 (秋田県大潟村) 自由報告 (共同発表: 西城戸 誠・丸山 康司・柏谷
至・藤 公晴) 「ポスト開発主義としての再生可能エネルギー事業のための環境社会学」(平
成 24 年 6 月)

環境社会学会第 44 回大会 (関西学院大学) 自由報告 (共同発表: 柏谷 至・丸山 康司・西城戸
誠・藤 公晴) 「再生可能エネルギーと内発的発展-青森県における風力発電事業の「担い手」
をめぐって-」(平成 23 年 12 月)

環境社会学会第 42 回大会 (法政大学) 自由報告 (共同発表: 藤 公晴・丸山 康司・西城戸 誠・
柏谷 至) 「コミュニティ風車及び風力発電ファームの導入にかかる欧米のガイドライン概観」
(平成 22 年 12 月)

環境社会学会 第 41 回大会 (岩手県葛巻町) 自由報告 (共同発表: 丸山 康司・西城戸 誠・柏
谷 至・藤 公晴) 「再生可能エネルギーの需要形成と社会的受容性」(平成 22 年 6 月)

[専門家会合や国際会議発表]

藤 公晴 (2019) 第 1 回青森県 ESD/SDGs 勉強会 講演. 主催 青森県環境パートナーシップセ
ンター. 東北地方 ESD 活動支援センター

藤 公晴 (2019) 令和元年度 もったいない・あおもり県民運動推進大会シンポジウム パネル
ディスカッションコーディネーター 青森県、もったいない・あおもり県民運動推進会議、
一般財団法人自治総合センター

藤 公晴 (2019) 基調講演「再生」の時代の学びと変容、社会の仕組み. むつ湾クリーンアッ
ププロジェクト活動発表会. 主催 ベイ・クリーンアッププロジェクト実行委員会、協力
むつ湾広域連携協議会 2019 年 9 月 22 日

藤 公晴 (2018) SDGs 時代の環境教育の可能性と課題. 青森県環境教育専門員レベルアップ研
修. 青森県庁環境政策課

藤 公晴 アメリカの事例 (1) 諸外国の青少年教育施設等調査 文部科学省&国立青少年教育振
興機構合同研究会 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター 平成 25 年 7 月

Kimiharu To. Qualitative Research Approaches for Understanding the Progress of the
United Nations Decade of Education for Sustainable Development (DESD), 10th
UNESCO-APEID International Conference 6-8 December 2006, Bangkok Thailand
(2006)

[学会における小集会主宰]

藤 公晴 「ESD 研究にかかる解釈学的アプローチの可能性と課題」『日本環境教育学会 第 20
回大会』 東京農工大学、2009 年 7 月 26 日

[論文査読など学会活動]

社団法人日本環境教育学会 業務執行理事 (2021~)

- 国際交流委員会 委員長
- 国際共同研究会 代表
- Chief Editors, ASPECIAL ISSUE OF JAPANESE JOURNAL OF ENVIRONMENTAL EDUCATION: ENVIRONMENTAL EDUCATION IN ASIA (JJEE-EEA2021) Ryo SAKURAI / Kimiharu TO
- 第 31 回年次大会（オンライン）英語報告部会座長、オンライン・ラウンドテーブルセッション分科会座長（2020 年 8 月 22 日）
- 3 月研究集会 国際共同研究会主催（2021 年 3 月 21 日）
- 研究委員、編集委員

論文査読 Nature+Culture 誌 The Helmholtz Centre for Environmental Research (UFZ) ライプツィヒ, ドイツ (令和 3 年 8 月)

論文査読 Nature+Culture 誌 The Helmholtz Centre for Environmental Research (UFZ) ライプツィヒ, ドイツ (平成 25 年 7 月)

日本環境教育学会編集委員会依頼「研究論文」の原稿査読 (平成 24 年 5 月)

日本環境教育学会青森大会「論文の書き方セミナー」協力 (平成 23 年 7 月)

日本環境教育学会第 22 回大会青森大会 実行委員

日本環境教育学会編集委員会依頼「報告論文」の原稿閲読 (平成 21 年 12 月)

[共同研究]

「自然とのつながり」に関する国際共同研究のアンケート調査実施（国立台中師範大学と立命館大学との共同研究）2019～

「アジアの環境教育をテーマとした国際共同研究構想の可能性」（降旗信一、T.C.チャン、キム チャンクック、イ ソンギョン、二ノ宮リムさち、秦範子、片山純子、藤公晴）2018～

Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan 共同研究者：Sharon Moran (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境学研究科), Andrea Parker (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究科), Beth Folta(Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境森林生物学科) (2011～)

科学技術振興機構・社会技術研究会開発センター 助成研究 (2009-2011)

「地域連携による地域エネルギーと地域ファイナンスの統合的活用政策及びその事業化研究」（代表飯田哲也）地域再生可能エネルギー開発調査グループに参画し、再生可能エネルギーの地域レベル導入に関する青森県内関係者を対象としたアンケート調査、ガイドライン作成、フォーラム「地域のお金とエネルギーを地域と地球に活かす」開催に参画。

[研究協力・支援]

平成 25 年 8-9 月

研究者：Julie Celnik, フランス社会科学高等研究院 (Ecoles des Hautes Etudes en Sciences Sociales) Paris FRANCE テーマ：Bioregionalism in Japan

[社会貢献および地域活動など]

青森県立東高等学校父母と教師の会 会長 (令和 4 年～)

青森県広域緑地計画策定委員会 (令和 3 年～)

青森県環境審議会 会長 (平成 30 年～)

青森県環境審議会 委員 (平成 24 年度～)

第 6 次青森環境資本計画策定有識者会議 議長 (2019.5~2019.12)

平内町ハクチョウのまち再生事業実行委員会 委員長 (2016.6~)

東北環境パートナーシップオフィス事業検討委員 (2019-2021)

Planet Drum Foundation 理事 (2001~)

平内町 ハクチョウのまち再生事業実行委員会 委員長 (平成 27 年 6 月~)

Hult Prize Tokyo Regional Summit 審査員 (2019)

Empowering Young Global Talents in Japan on Social Impact. Hult Prize JAPAN (2020 年 6 月 24 日)

「SDGs 時代の働き方：日々に埋め込まれた選択肢を注視する」 青森明の星短期大学 キャリアサポート I 担当 (2021 年 12 月 20 日)

「SDGs とは：人類の進化と私たちの森林」 青い森林業アカデミー 研修 (2021 年 12 月 3 日)

「SDGs を考える：明日に向けて幼児教育の振興を考える」 (一社)青森県私立幼稚園連合会 基調講演 (2021 年 11 月 5 日)

「SDGs とは：人類の進化と私たちの生き方」 講師 青森県立五所川原高等学校 (2021 年 11 月 1 日)

「【対談】 ESD・SDGs をあおもり視点から学ぼう！東北 ESD・SDGs フォーラム 2021: 人づくりから広がる SDGs の力」 (2021 年 10 月 17 日)

「SDGs って何？」 秋田県立大学 生物資源科学への招待 (2020 年 7 月 13 日)

「SDGs 時代における青森大学の教育の質向上に向けた試み」 青森県環境政策課主催 環境活動ネットワーク交流会 (2020 年 11 月 18 日)

「SDGs ってなんだろう」 青森県中小企業家同友会上十三支部例会 (2020 年 11 月 27 日)

「SDGs 時代の国立公園ビジターセンター：裏磐梯ビジターセンター交流会/研修会」 東北環境パートナーシップオフィス (2021 年 2 月 26 日)

「SDGs 時代の地方の高等教育機関の可能性と課題」 特定非営利活動法人はちろうプロジェクト勉強会 (2021 年 3 月 2 日)

「SDGs と青森」 青森モーニングロータリー卓話 (2021 年 3 月 9 日)

「SDGs とまちづくり、まちおこし (仮)」 六戸町観光協会 (2021 年 3 月 19 日)

青森山田高等学校特進コース SDGs 共同プログラム (2020 年 7 月 16 日、8 月 27 日、9 月 1 日、10 月 27 日、12 月 25 日)

青森県立黒石商業高等学校 SDGs 講義&ワークショップ (2021 年 1 月 29 日、2 月 12 日)

第 6 回みちのく薪びと祭り in 青森おおわに 講評 2019 年 10 月 26 日 (土) ~27 日 (日)

第五次青森県環境計画策定検討有識者会議 委員 (平成 26 年度)

青森県社会教育センター「アートがつなぐ震災の記憶と希望」マグダレナ・ソレ氏との対談 3 月 16 日 (水)

独立行政法人国立青少年教育振興機構「諸外国の青少年教育施設等調査」担当：米国農務省等における 4-H の国立青少年施設、青少年行政等に関する現地調査 (Washington D.C. and New York) 平成 24 年 10 月 28 日~同年 11 月 13 日。

青森県教育庁：「青い森水辺を守る環境サミット」全体会コーディネーター 青森県総合学校教育センター 2011 年 11 月

環境思想・教育研究会 第 1 回研究大会 (会場 弘前大学) 環境教育特別セミナー「青森の自然を書 (描) くーネイチャーライティングの授業への導入の可能性をさぐるー」総合討論コーディネーター (平成 24 年 9 月)

平成 23 年損保ジャパン SAVE JAPAN 希少動植物の保全にかかる啓発事業 80 万円

9月3日(土)「みんなで守ろう! 希少動物オオセッカの生息地 観察会」

場所: 岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師: 竹内健悟氏

協力: 中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

参加者数: 約6名

9月17日(土)「みんなで守ろう! 希少動物オオセッカの生息地 観察会」

場所: 岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師: 竹内健悟氏

協力: 中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

参加者数: 約25名

9月18日(日)「みんなで守ろう! 希少動物オオセッカの生息地 観察&調査」

場所: 岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師: 竹内健悟氏

協力: 中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

参加者数: 約15名

10月23日(日)「メダカの生活、水辺の健康、私たちによる保全活動」

場所: 青森中央インターープ内ビオトープ 講師: 佐原雄二教授(弘前大学農学生命

科学部) 参加者数: 約20名 協力: 東日本高速道路(株) 東北支社青森管理事務所、日本環

境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズム実践者を対象とした意識動向調査」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「着地型をベースにしたグリーンツーリズム・モデルコース構想」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズムにかかる潜在的指導者のリスト作成」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズム実践者の意識と動向に関する勉強会」アウガ男女共同参画プラザ研修室、2009 年 3 月 12 日 18:30-20:45 主催: 青い森グリーンツーリズム推進協議会

藤 公晴 あすなろマスターカレッジ自然科学コース(青森校) 講師 第 12 回 環境コミュニケーション論(9 月 13 日)、第 18 回 イベント企画(11 月 7 日) 青森県立社会教育センター

藤 公晴 青森大学自然学校 OB/OG 会 顧問就任(2009 年 4 月)

藤 公晴「はぐくもう グリーンツーリズム王国」主催: NPO 法人元氣王国 共催: 河北新報社、荘内銀行 3 月 29 日付 河北新報 紙面対談記事掲載(10 段分、23 ページ)

[国際交流]

Kimiharu To “Teacher Bill.” Planet Drum Pulse Planet Drum Foundation

Newsletter 2010. なお、同記事は 2009 年 10 月 10 日の故ビル・ディボル氏(カリフォルニア州立大学ハンボルト校社会学部名誉教授)の偲ぶ会における追悼頌徳演説。

Kimiharu To Planet Drum Foundation(米国環境 NPO)の理事業務 エクアドル共和国 Bahia de Caraquez 市郊外の Bioregional Sustainability Institute(2010 年春開校予定)設立準備への参画およびコンサルティング。2010 年バンクーバーと 2014 年ソチ冬季五輪における環境負荷に関する提言活動。

[学内各種委員]

学長補佐(2020.4~)

国際教育センター センター長、副センター長

国際交流委員会

学生募集委員会

留学生支援委員会(-2012)

図書委員会(-2012)

[その他]

学校法人青森山田学園 法人本部 本部長補佐

学校法人青森山田学園 評議員